

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 5月22日

### 【評価実施概要】

事業所番号	第3871400275号		
法人名	医療法人竹林院		
事業所名	グループホーム「竹の園」		
所在地	愛媛県西予市野村町野村12-106 (電話) 0894-72-2020		
管理者	米田 千鶴		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	松山市持田町3丁目8-15		
訪問調査日	平成19年4月26日	評価確定日	平成19年7月18日

### 【情報提供票より】 (平成19年4月8日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 18年 2月 21日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	15 人 常勤 10人, 非常勤 5人, 常勤換算 12.1人

#### (2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷金	有( ) 円	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有( ) 円	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 食材費に含む 円
	または1日当たり 1,000 円		

#### (3) 利用者の概要 (4月 8日現在)

利用者人数	18 名	男性 7 名	女性 11 名
要介護1	8 名	要介護2	5 名
要介護3	5 名	要介護4	名
要介護5	名	要支援2	名
年齢 平均	84.4 歳	最低	72 歳
		最高	94 歳

#### (4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定(あり)・なし	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定(あり)・なし	指定認知症対応型通所介護
届出(あり)・なし	短期利用型共同生活介護
加算(あり)・なし	医療連携体制加算

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

施設長を含めた全職員でつくった理念があり、その達成に努力している。利用者の表情が穏やかで明るいことから、毎日の生活が推測できる。「介護は、情報を共有し、常に考えながら行えば、正しい介護。間違った介護というものはない」という管理者の言葉も印象に残る。施設は病院・保育所・体育館・児童公園に近く、利用者の散歩コースは交通量も少なく、地域の人達のウォーキングコースでもある。さらに、地域の人達と良い付き合いができるよう努力されることを望みたい。

### 【質向上への取組状況】

- ▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)  
ホームを開設して1年経過したが、評価は今回初めてである。
- ▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)  
評価は、職員全員で取り組み、管理者は職員の意見を大切にした。
- ▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)  
会議では、事業所の概要、目的、運営方針、組織の概要、利用料、入居の状況、職員の概要、サービス提供内容等の説明の他、行事予定等も話し合い、地域の理解を求めた。特に避難訓練については、協力を得たい旨伝え、近隣者との交流も積極的に取り組みたい気持ちを伝えている。
- ▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)  
家族の意見、苦情、不安を十分理解したいとの思いから、面接時にはゆっくり時間をかけるようにしている他、意見箱も設置している。また利用者から家族に帰宅願望やホームでの生活に不満を訴えていないことから、安心されていると推察できる。苦情相談窓口の紹介は明記されているが、今少し工夫されることを望む。
- ▼ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)  
職員は地域との交流を大切にし、地域の行事(溝の清掃)や祭りに積極的に参加している。さらに、「ホームの住民は利用者である」という視点から、付き合いの中身を検討することが望まれる。

(別表第1の2)

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

### V. サービスの成果に関する項目

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!**

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
- 「取り組みの事実」は必ず記入すること。

### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名	グループホーム 竹の園
(ユニット名)	1階
記入者(管理者) 氏名	米田千鶴
評価完了日	平成19年5月22日

(別表第1)

## 自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 職員全員で話し合い作成した、竹の園独自の理念をの玄関に掲示している。  (外部評価) 開設当初、施設長を含め全職員で介護理念を作った。「自分がされたくない介護、してほしい介護」で議論し、優しさ溢れる理念であるが、開設1年を経過し、今一度見直しをする予定である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 上記の通り管理者・職員皆で考え、話し合って作成した。作成時から共有し、理念の達成に向け努力している。  (外部評価) 利用者の表情がとても穏やかで明るいことから、日々の実践の中で理念に沿った介護であるよう努力していることがうかがえる。また管理者は職員との理念の共有にも努めている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 家族に対しては契約時に理念の説明を行っている。地域への発信については、入居者個別に地域の関わりを継続できるように、面談時に近隣者や親戚等に説明している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	通院・散歩等で隣近所の方とあえば気軽に声掛け・挨拶、話をする。時には季節の野菜等をいただいたり、おやつを手作りして持ってきていただいた事もある		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地区の道作り（清掃活動）に1年目より参加し、今年も行う予定。亥の子や秋祭り等も来てもらっている。近くの保育所との交流・夏の盆踊り等も見に行くと、入居者が知り合いに出会ったりということもある。近くの老人体操会に参加されたり、文化祭に出品された方もいる。  (外部評価) 隣接する保育所との交流は頻繁にあり、利用者も全身で喜ばれる。地区活動としては、溝掃除等に積極的に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	近隣も高齢者が多くなり、昨年の地区掃除には参加させてもらい、喜んでもらっている。今年も参加予定。訪ねてもらおう声を掛けたり地区役員との意見交換は行っているが、遊びに来てもらおうと言う雰囲気にはなっていない。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己・外部評価の意義は理解しているが、初めてなので「評価を生かして」具体的に取り組むところまでいっていない。評価の結果を基に、今後取り組む予定。 (外部評価) 評価は初めてであり、意義を十分理解していたとはいえない。自己評価は全職員で取り組み、管理者は職員の考えを大切にしている。評価は職員の教育にも位置づけられるため、今後はさらにならぬ活用方法について共有していく予定である。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議での報告は出来ている。特に要望はないが、地区の行事参加等は委員の方にあらかじめお願いしていることもある。 (外部評価) 運営推進会議は開催している。参加メンバーの意見が十分聞けるよう円卓会議としている。グループホームへの理解を得るとともに、地域行事に積極的に参加したい旨も伝えている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 西予市ではグループホーム連絡会を定期的に開催され、そこで連絡事項や質問等を行っている。時には総合支所の介護保険課に個別に相談助言を受けることでサービス内容の向上に努めている。 (外部評価) 市が主催するグループホーム連絡会に出席する他、介護保険課、地域包括支援センターとも連携を取っている。管理者はそれぞれの部署の職員とは信頼関係を結んでいる。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 平成18年度に研修に参加しおおまかな理解は出来ていると思っている。現在成年後見人制度の利用を考えている入居者がおられるため相談を受けている。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 内部研修で行い、現在のケア内容・記録の取り方を検討している。		職員も健康管理やリフレッシュに努める

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に家族や本人の疑問には丁寧に答えるよう心がけている。その後も説明を直接聞かれなかった家族等が希望された場合、その様子がうかがえる場合は積極的に説明している。		契約内容に変更があった場合や介護保険変更時等、口頭及び文書にて報告し同意を得ている
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 不満要望等、職員にされたときはその都度管理者に報告し、改善策を考えている。先日、温泉に行こうと要望が出て実施したが、運営に関しては頻回に出ない。玄関に「意見箱」も設置しているが、利用されたことはない。		出来る限り利用者の要望に応える努力をする。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 面会時近況報告を行う。病態の変化時や緊急受診時等は電話連絡をしている。家族が県外に在住されている場合、頻回(時には毎週)に電話連絡をしている方もいる。金銭管理については預かり金精算書と領収書を送り、面会時に口頭で報告した後、同意の署名をもらっている。 (外部評価) 緊急時は電話連絡する。その他、家族の面会時や毎月の請求書送付時に写真や手紙を同封する等、丁寧な報告が行われている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 「意見箱」を設置しているが利用されたことはない。契約時に苦情や意見を表せる場所を説明(母体の医療施設や居宅支援事業所等) 現在まで運営に関しては、特に不満や要望がなかった。 (外部評価) 職員に意見、不満、苦情等表せるよう、特に面会時に配慮している他、「意見箱」も設置されている。また運営規定や重要事項説明書にも明記されている。		
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者に対して職員の意見や希望は出され、職員間の意見をまとめた上で、ほとんど役員会で調整・決定され職員へ報告される。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 出来ている。 勤務体制について改善が必要になった場合は、調整している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 移動が少ないので影響はあまりないと思われるが、職員の退職に伴う変更はあったが、特に混乱はなく、受け入れてもらえたように思う (外部評価) 開設1年の間に退職した職員はいるが、利用者に混乱は見られなかった。運営者は馴染みの関係づくりを大切にし、安易な事業所間の異動は行っていない。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 月1回の法人内部研修を行ってサービスの向上を図っている。GH連絡協議会等の研修を利用して、外部の研修を受けられるように勤務等希望を優先している。 (外部評価) 月1回の法人内研修、月2回のカンファレンスの他、市主催のグループホーム連絡会や県の協議会主催の研修に非常勤職員を含めて参加している。管理者は情報を公開し、職員の希望に沿うよう援助している。		技術向上につながる研修を増やしたい
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 市内のGH連絡会での交流に管理者・職員が参加している。GH連絡協議会の参加費用を負担してもらっている。 (外部評価) 運営者は市主催のグループホーム連絡会に職員を出張扱いで参加させている。事業所間のみ的小規模な交流会は持っていない。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員間で相談しあう。上司に相談する。 経営者が直接GH間にて意見調整している。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 研修報告書・勤務表等の提出、役員会での報告にて把握。 個々に意見を聞いている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入所前に自宅訪問し、ホームの生活についての説明や本人の希望等聞き取りを行っている。 GHの体制をわかりやすく説明している。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入居前に家族にホームを見学していただき、希望を聞き相談を行っている。		
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人・家族と納得いくまで話し合いを持ち、入所時の不安をなくすよう努めている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 時には本人が家族とともに来所され他利用者や職員と会われることもあるが、それも1回位でほとんど直ぐ入居となることが多い。 (外部評価) 現在入居中の利用者の中には、顔馴染みの職員がいるという理由で、申込日に即入居した例もある。その場合も、本人の希望、納得を大切にしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 日々の中ではゲーム等を一緒に行い、3月には1日温泉旅行に行き一緒に入浴・食事を楽しんだ。 (外部評価) 管理者には「介護されるばかりの立場は辛いだろう」との思いがあり、出来るだけ一緒に過ごすことを心がけている。最近、一日温泉旅行に行き、背中を流し合い、喜びを分かちあった。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 頻りに面会に来られるよう、職員も家族と会話を重ね信頼関係を持つようにしている。 時には家族と職員が近隣者であったり同級生であったりする事もある。信頼関係を持ちやすい反面、気詰まりな思いをもたれることもあるため、適度な距離を保つことも心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 時々自宅に家族と一緒に帰り、過ごされるよう話を進める。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 散髪等なじみの店に行ってもらい、ゆっくり会話してもらうよう努める。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) テレビの番組、入浴の順番等希望を聞き譲り合ってもめないよう気を配る。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 家庭の事情により帰宅または入院等になる場合、出来ることは助ける。		

### Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

#### 1. 一人ひとりの把握

33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人一人の希望を聞いても、直ぐに返事は帰らないときは、考えを提案してみる。		
			(外部評価) 職員には、利用者一人ひとりの思いや希望を把握し、大切に する気持ちは十分にあり、得た情報は各自の手帳に記録し、さらに利用者一人ひとりの気付きノートを作り全員で記録している。		
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) アセスメント・家族が来所されたときに生活歴や生活環境趣味等を把握する。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 1日の流れの中で、起床時の様子・食事・入浴時の観察に気を配り、体調を把握する。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 現在職員と家族とともに話し合いの場を持ち、良い方向に向かっていていると思う。  (外部評価) 介護計画は出来るだけ家族の意見を聞いて作成している。気付き、意見、要望を反映する為に作った気付きノートを十分に活用している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 現状より悪化させないための見守りをしている。 (計画書変更時は事前に家族と連絡を取るか、面談の上作成し職員の会議後個別ケアにまとめている。その後の状況変化については、毎日のように送り後ミニカンファレンスを行い個別ケアを変更し記録、細かく対応している。)  (外部評価) 利用者一人ひとりの介護について 計画→実行→モニタリング→継続 と変化がなくても、3ヶ月に1回見直しが行われている。		
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 細かい記録があつてわかりやすい。又、情報を共有して良きサービスをしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 同法人のディサービスに参加し楽しまれている。  (外部評価) 事業所が併設しているデイサービスを利用したり、病院の筋力トレーニングに参加したりしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 協力してもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 本人からの希望も無く特にはなかった。が、1名退所の方向で援助している方は、帰宅後のケアマネジャーや利用する可能性のある事業所とともに担当者会議を2回行っている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 平成19年4月1日に地域包括支援センターが立ち上がるため、現在はなし。		
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人の希望に応じて支援している。 <hr/> (外部評価) 利用者18名は、地域外1か所を含めて、5か所のかかりつけ医を継続して受診している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 心療内科への受診もしている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) している 医療連携体制をとっているため、日常の健康管理の支援はしている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 関係病院等のカンファレンスに参加し、情報を交換しながら対処している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) おおよそ概要を記載した指針は準備している。 <hr/> (外部評価) 利用者は必ず重度化すると思われるが、終末期のあり方等、関係者一同で話し合いをはじめている。	※	マニュアルを作成しておくことで全員で方針を共有できる。  職員は不安を持っている。医療や看護面のみにとらわれることなく、「どう生きるか？」という視点も含めて、安心できるまで、さらに、研鑽を積まれることを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 他のユニットで退所された方があり、どれくらいの状態ならケアが可能か個別に相談はしたが、今後ユニットのカンファレンス等でまとめていく予定である。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 努めている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 誇りやプライバシーを損ねる言葉掛けや対応はしていないが、個人情報や記録は管理している。 <hr/> (外部評価) 声かけや誘導は穏やかで違和感を感じなかった。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) している。ただ、自己決定に不安な利用者に対しては家族・職員と話し合っている。		
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その目をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) している。 希望に添える内容かどうかで支援は変わる。 <hr/> (外部評価) 本人が望む過ごし方を支援する、又は本人のペースを尊重する支援が大切であることは十分理解しており、努力している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 努めている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) している。準備・片付けは手伝ってもらっている。  (外部評価) 食事作りは、主に臨時職員の仕事になってきており、利用者が準備や後片付けに参加することを「手伝ってもらっている」と表現し、一緒にという思いが少なくなっている。	※	食事を楽しむ一連のプロセスと一緒に取り組むことの意味を、再度、検討してほしい。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 支援している。ただ病状や疾患に応じて、個人差はある		
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) している 排泄チェック表を利用しパターンを把握する事で、トイレ誘導を行いオムツの使用を減らせるよう努めている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) している。  (外部評価) 事業所の都合、職員の都合で、曜日や時間帯が決められている。	※	管理者は「できるだけ自由に」と考えている。今後の工夫に期待したい。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) している 毎日の生活行動を把握し、生活パターンを理解し支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 散歩・デイサービスの利用、食事の支度などを手伝ってもらっている。  (外部評価) 職員は利用者が何もせず座っている姿を見るのが辛く、積極的に働きかけているが、そのことが気晴らしの支援に繋がっているのか不安を持っている。調査時に見られた利用者の表情の穏やかさ、明るさは印象に残っている。		保育園が近いので季節ごとに来園してもらいたい。
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 小遣い程度は本人希望で所持されている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 天気の良い日は散歩を勧めているが、物療やデイサービスにも行かれている。  (外部評価) 毎日散歩・物理療法・デイサービス等に参加する利用者も多く、外出機会は多い。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 本人希望や家族との外出は積極的に行っている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人が自主的に電話されている。手紙が届いたら返事を書いたり電話される。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 面会に来られた時は、自室でゆっくり話ができるようにする。時にはホールで職員も交えて話をすることもあり、お茶や時間によってはおやつを食べながら、気兼ねなく来ていただける雰囲気作りを心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 会話により理解してもらうようにしているので、現在身体拘束はない。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 虐待・身体拘束について研修会を持っている。鍵は夜間のみ  (外部評価) 日中平均5時間、施錠しているユニットがある。いろいろと対応を工夫したが、利用者の安全のためにはやむを得ないと考えている。このことは市の介護保険課や地域包括支援センターにも伝えている。	※	鍵をかけない暮らしの大切さを基本に、利用者の思いを深く理解することを含めて、今後も努力していくことを期待する。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日中は所在場所を確認しながら見守るが、「監視」とならないよう、さりげなく行うようにしている。夜間は2時間毎及び物音がした場合は訪室を行って安否確認をしている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 状態に応じて自室の押し入れで管理する。持参品をチェックしている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 転倒等の予防や対処方法について、内外研修にて学んでいる。		
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 消防署の協力で避難訓練や救急法について訓練を行っている。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 災害時は隣の体育館に避難等のマニュアルが作成してある。職員の緊急連絡網は準備してある。近隣との協力に向けて検討している。 (外部評価) 避難マニュアル及び緊急連絡網が作成されており、年内に避難訓練を計画している。		夜間自宅待機からの災害時の訓練や近隣の協力を受け手の避難訓練を今後行っていきたい。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 可能性については事前に家族と話し合い意向を確認している。問題があるとその都度家族と連絡を取り対応している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日のバイタルチェックや聞き取りにて早期発見に努めている。職員間の申し送り、家族への報告等で情報を共有し、体調の変化があると直ぐ対応している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方された薬は職員が目的・副作用を確認し、セットしている。特に臨時で処方された分については、目的等を個別ケアに記録し職員全員が注意するようにしている。		
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 飲食物については気配りをしているが、散歩やデイサービスの利用を勧めている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 食後の口腔ケアは声掛けし出来ている。週1回義歯・コップ歯ブラシの消毒を行なっている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士が献立表を作製している。毎食後の食事量を記録し、本人に合った水分補給をしている。 (外部評価) 母体病院の栄養士の指導を得て、献立、調理方法を工夫している。摂取量も記録されている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取組みがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 流行の状況により、手洗いの徹底・手すりや床のハイター消毒等を行っている。今回は事前にマニュアル化してはなかったが、対応を確認し内部研修にて周知し実行した。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食器、調理器具は食器洗浄機にて洗浄。布巾タオル等は塩素系消毒を行ない、感染症予防に気を配っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関周りは季節の花をプランター鉢で置き、壺には季節の花を生けている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 台所・食堂・居間がつながっていて、みんなの動きをよく見ることが出来、会話ができる。  (外部評価) 共用空間は穏やかで、利用者同士助け合う姿も見られた。また職員は利用者一人ひとりの好みの居場所作りに努力している。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 廊下から外を眺められる人にはござや座布団を準備したり、丸太いすを建物周囲に設置し、散歩中に一休みしたり話をされたりと利用してもらっている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室は日当たりのよう方角に取っており、なじみの家具等を持参されている人もいる。畳の利用もある。 表札は親しみやすい手作り、本人らしさを出している。  (外部評価) パンフレットにも、馴染みの物品の持込を明記し、面接時に説明しているが、持参している利用者は少ない。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の様子がないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 居室はホールにエアコンがあり、食堂・ホールには床暖房を設置してある。居室はほぼ24時間換気をしている。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) バリアフリーの建物でほとんどの人が自由に動かれる。また建物周囲も自由に散歩される。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 一人一人の能力に合うよう声掛け・相談・援助を行っている。		
87		○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 建物周囲は巡ることが出来、丸太いすや木のテーブルを設置して利用してもらっている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	利用者の希望・思いを聞き季節の行事に参加している。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある (自己 2 数日に1回程度ある 評価) ③ たまにある 4 ほとんどない	通院介助・ディサービス等外出が多く時間に追われるので、少ない。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	一人一人マイペースで動かれる事を支援している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	買い物等外出支援時明るい表情が多い。温泉に行った時はとても喜ばれた。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	車椅子対応の方もリフト車の利用で合い出支援をしている。車の都合上利用時間等、時に制限を受ける事がある。他利用者は建物周囲や他外出等ほぼ自由にしてもらっている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	病院との連携の下に速やかに対応が出来る。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	家族に事情により希望通りにいかないときもあるが、ほぼ希望に応じる事が出来ている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ほぼ全ての家族と (自己 2 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	家族の思っていることをよく聞いて相談に応じ、アドバイスにてあんしんされる。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) ③ たまに 4 ほとんどない	幼稚園や保育所との交流は出来ているが、ボランティアの方に来てもらうまでには至らない。

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) ③あまり増えていない 4 全くいない	運営推進会議の参加者には、徐々に理解を深めて頂いていると感じる。が、地元との関係が深まっているように感じないため。
98	職員は、活き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ②職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	日々の流れに追われて職員同士の交流がもてない事や勉強会が多いこともあり2/3と判断した
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ②利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	帰宅願望者が少なく、気安く会話をしたりしている。が、通院時間等、病院の指示を伝えると不満げな表情をされることがあったりするため、十分に満足しえいるとはいえないと考えた。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ②家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	利用者から家族へ、不満を言われていないので安心していているところもある。家族の中には感謝の言葉がない方もあり、十分満足してもらっていると判断できないため②とした

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

## 【力を入れている点】

- \* ボランティアの受け入れを増やし、生活に変化が出来るようにする。
- \* 入居者の気持ちや行動の理解を深める事・情報の共有を確実に。

## 【アピールしたい事】

- \* 施設内部は利用者本位に、手すりを個別に設置したりして使いやすいようにしている。それと共に段差をなくし安全性も高い。
  - \* 栄養士からアドバイスを受け、バランスの良い食事を提供している。
  - \* 建物が便利で環境の良いところにある。
- ①病院・保育所・児童公園・商店等が近くにある。  
②川の近くで土手は交通量も少なく、近隣者の散歩コースとなっている。

(別表第1の2)

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

### V. サービスの成果に関する項目

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!**

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
- 「取組みの事実」は必ず記入すること。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホーム 竹の園

(ユニット名)

2階

記入者(管理者)  
氏名

米田千鶴

評価完了日

平成19年5月22日

(別表第1)

## 自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 職員全員で考えて作った理念がある。  (外部評価) 開設当初、施設長を含め全職員で介護理念を作った。「自分がされたくない介護、してほしい介護」で議論し、優しさ溢れる理念であるが、開設1年を経過し、今一度見直しをする予定である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 試行錯誤しながら、日々取り組んでいる。  (外部評価) 利用者の表情がとても穏やかで明るいことから、日々の実践の中で理念に沿った介護であるよう努力していることがうかがえる。また管理者は職員との理念の共有にも努めている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 取り組んでいます。 施設単独での催し物ではなく、地域にて参加できるイベントを企画し、理解を深めてもらっている		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 外出などの際、必ず挨拶をし、気軽に声掛け、立ち寄って頂ける様な雰囲気を作るよう勤めている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 勤めている。 地区の清掃活動にも参加している。  (外部評価) 隣接する保育所との交流は頻繁にあり、利用者も全身で喜ばれる。地区活動としては、溝掃除等に積極的に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 取り組んでいる。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 努力している。  (外部評価) 評価は初めてであり、意義を十分理解していたとはいえない。自己評価は全職員で取り組み、管理者は職員の考えを大切に。評価は職員の教育にも位置づけられるため、今後はさらにならぬ活用方法について共有していく予定である。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 活かしている  (外部評価) 運営推進会議は開催している。参加メンバーの意見が十分聞けるよう円卓会議としている。グループホームへの理解を得るとともに、地域行事に積極的に参加したい旨も伝えている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 取り組んでいる。  (外部評価) 市が主催するグループホーム連絡会に出席する他、介護保険課、地域包括支援センターとも連携を取っている。管理者はそれぞれの部署の職員とは信頼関係を結んでいる。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 平成18年度に研修に参加しおおまかな理解は出来ていると思っている。現在成年後見人制度の利用を考えている入居者がおられるため相談を受けている。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 内部研修で勉強会を行った。虐待の新聞記事等は目を通して理解を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 出来ている。 契約時に頻人・家族に説明し理解を得ている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情・意見箱の設置をしている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 写真・手紙等で家族に知らせており出来ていると思う。  (外部評価) 緊急時は電話連絡する。その他、家族の面会時や毎月の請求書送付時に写真や手紙を同封する等、丁寧な報告が行われている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会にこられた時に話をお聞きし、出来ている。  (外部評価) 職員に意見、不満、苦情等表せるよう、特に面会時に配慮している他、「意見箱」も設置されている。また運営規定や重要事項説明書にも明記されている。		
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 勉強会など話し合う機会もあり、意見を出し反映できていると思う。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 出来ている		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 配慮されている。  (外部評価) 開設1年の間に退職した職員はいるが、利用者に混乱は見られなかった。運営者は馴染みの関係づくりを大切にし、安易な事業所間の移動は行っていない。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修等に参加できている。  (外部評価) 月1回の法人内研修、月2回のカンファレンスの他、市主催の連絡会や県の協議会主催の研修に非常勤職員を含めて参加している。管理者は情報を公開し、職員の希望に沿うよう援助している。		
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 各自での交流は出来ているが、施設間での交流は出来ていない。  (外部評価) 運営者は市主催のグループホーム連絡会に職員を出張扱いで参加させている。事業所間のみの小規模な交流会は持っていない。		他施設を訪問し情報交換が出来ればよいと思う。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 出来ていない。		楽しみのある職場作り。旅行・スポーツ大会など行いたい
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 各自は持っているが、それを活かしていけるような体制にない。		話し合いの場所が少ない。カンファレンス等を開き話し合い、勉強会の時間を作ると良いと思います。(現在1回/月の勉強会・2回/月のカンファレンス実施中)



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていることを本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 時間は限られているが、自分なりに努力している。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入居前に家族にホームを見学していただき、希望を聞き相談を行っている。		
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人・家族と納得いくまで話し合いを持ち、入所時の不安をなくすよう努めている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 時には本人が家族とともに来所され他利用者や職員と会われることもあるが、それも1回で位でほとんど直ぐ入居となることが多い。 (外部評価) 現在入居中の利用者の中には、顔馴染みの職員がいるという理由で、申込日に即入居した例もある。その場合も、本人の希望、納得を大切にしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 日々の中ではゲーム等を一緒に行い、3月には1日温泉旅行に行き一緒に入浴・食事を楽しんだ。 (外部評価) 管理者には「介護されるばかりの立場は辛いだろう」との思いがあり、出来るだけ一緒に過ごすことを心がけている。最近、一日温泉旅行に行き、背中を流し合い、喜びを分かちあった。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 頻りに面会に来られるよう、職員も家族と会話を重ね信頼関係を持つようにしている。 時には家族と職員が近隣者であったり同級生であったりする事もある。信頼関係を持ちやすい反面、気詰まりな思いをもたれることもあるため、適度な距離を保つことも心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 時々自宅に家族と一緒に帰り、過ごされるよう話を進める。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 散髪等なじみの店に行ってもらい、ゆっくり会話してもらおうよう努める。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) テレビの番組、入浴の順番等希望を聞き譲り合ってもめないよう気を配る。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 家庭の事情により帰宅または入院等になる場合、出来ることは助ける。		

### Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

#### 1. 一人ひとりの把握

33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人一人の希望を聞いても、直ぐに返事は帰らないときは、考えを提案してみる。		
			(外部評価) 職員には、利用者一人ひとりの思いや希望を把握し、大切に する気持ちは十分にあり、得た情報は各自の手帳に記録し、さらに利用者一人ひとりの気付きノートを作り全員で記録している。		
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) アセスメント・家族が来所されたときに生活歴や生活環境趣味等を把握する。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 1日の流れの中で、起床時の様子食事・入浴時の観察に気を配り、体調を把握する。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 会議を定期的に行い、積極的に取り組んでいます。  (外部評価) 介護計画は出来るだけ家族の意見を聞いて作成している。気付き、意見、要望を反映する為に作った気付きノートを十分に活用している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 実行しています。  (外部評価) 利用者一人ひとりの介護について 計画→実行→モニタリング→継続 と変化がなくても、3ヶ月に1回見直しが行われている。		
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の変化や実際に行った事などを記録し情報提供を行い見直す。場所が見つかれば介護計画に活かすよう努力しています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 実行しています。  (外部評価) 事業所が併設しているデイサービスを利用したり、病院の筋トレに参加したりしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 状況にあわせて、協力しながら支援をしています。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 本人の意向や必要に応じて支援を行っています。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 実施している。		
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人や家族の意向に合わせて支援を行っています。  (外部評価) 利用者18名は、地域外1か所を含めて、5か所のかかりつけ医を継続して受診している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 医療機関を協力しながら職員と利用者との関係をうまくように、努力し支援を行っています。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 実施している。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 利用者が入院した際、退院が早く出来るように、医療機関と連携し利用者が安心して暮らせるように協力しています。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) していない。  (外部評価) 利用者は必ず重度化すると思われるが、終末期のあり方等、関係者一同で話し合いをはじめている。	※	実施できるように取り組みたい。  職員は不安を持っている。医療や看護面のみにとらわれることなく、「どう生きるか？」という視点も含めて、安心できるまで、さらに、研鑽を積まれることを期待したい。
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 体調が急変した時のマニュアルが出来ている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 努めている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 記録等GH外に持ち出さない。  (外部評価) 声かけや誘導は穏やかで違和感を感じなかった。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 疑問や不満があるとき、納得してもらえるよう説明を行う。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 出来ている。  (外部評価) 本人が望む過ごし方を支援する、又は本人のペースを尊重する支援が大切であることは十分理解しており、努力している。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 本人や家族の希望を確認し、出来るだけ理美容店を利用している		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 野菜の下ごしらえや食器の片付けなど、出来る方には手伝ってもらっている。  (外部評価) 食事作りは、主に臨時職員の仕事になってきており、利用者が準備や後片付けに参加することを「手伝ってもらっている」と表現し、一緒にという思いが少なくなっている。	※	食事を楽しむ一連のプロセスを一緒に取り組むことの意味を、再度、検討してほしい。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 外出した時に購入物や差し入れなど、各自居室において自由に食べられている。状況により預かることもある。		
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄チェック表を活用し、パターンを把握している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 日曜日は入浴なし。時間は14時前後と決まっている。拒否された場合や体調に配慮しその都度対応している。  (外部評価) 事業所の都合、職員の都合で、曜日や時間帯が決められている。	※	管理者は「できるだけ自由に」と考えている。今後の工夫に期待したい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 出来ている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 家事に関することや趣味に通じる事などに取り組んでいます。本人の拒否もありうまく行かない。 (外部評価) 職員は利用者が何もせず座っている姿を見るのが辛く、積極的に働きかけているが、そのことが気晴らしの支援に繋がっているのか不安を持っている。調査時に見られた利用者の表情の穏やかさ、明るさは印象に残っている。		
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買い物も行っており出来ている。本人が希望した時や職員が買い物で外出する時など誘って一緒に出かけている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 出来る限り支援している。職員に余裕のある時は徘徊者に対しても本人の気が住むまで外出を行っている。徘徊者に対しては雨の日だろうと本人が歩きたい時外出している。ただし職員が対応できる時に限る (外部評価) 毎日散歩・物理療法・デイサービスに参加する利用者も多く、外出機会は多い。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 出来ている。 家族からの要望に対しては出来ている。所内でもイベントを作り外出している。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 出来ている。 家族からも手紙が来ており、きちんと渡せている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 自由に面会が面会者に対しても近況報告をし所内での様子を伝えている。 自由に面会が出来ており、希望に応じて外出外泊もしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 外出以外に対しては拘束を行っていない。		本人が気の住む限り施錠もない生活が出来るようにしてあげたい。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員がどうしても対応できない時のみ施錠している。利用者の安全のためにはやむをえない。極力政情しないよう利用者主体のケアをしている。 (外部評価) 日中平均5時間、施錠しているユニットがある。いろいろと対応を工夫したが、利用者の安全のためにはやむを得ないと考えている。このことは市の介護保険課や地域包括支援センターにも伝えている。	※	上記と同じ 鍵をかけない暮らしの大切さを基本に、利用者の思いを深く理解することを含めて、今後も努力していくことを期待する。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) している。危険と思われることに配慮している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 注意の必要な方は職員が物品を管理しているケースもある。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 関連の情報を申し送り等で職員同士情報交換しながら事故を予防している。・・・ヒヤリットの活用は？		
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 定期的に行ってはいないが、急変時の対応については話し合いがある。		




自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 徘徊者の外出に関しては地域の協力が強いが、災害時は火災以外については協力が得られないのではないかと思う。 (外部評価) 避難マニュアル及び緊急連絡網が作成されており、年内に避難訓練を計画している。		
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	(自己評価) 話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 異変があれば個別ケアに記録したり申し送りノートで伝えている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員が薬の仕分けをし、誰がどのような薬をどれだけ服用しているのかを把握している。		
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 出来ている。排泄チェック表でのパターンの把握や、運動量を増やすためディサービスを利用したりしている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 支援できている。 自分で出来る人は声掛け・見守りを行い、できない時は職員が横で介助している。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) している。 (外部評価) 母体病院の栄養士の指導を得て、献立、調理方法を工夫している。摂取量も記録されている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取組みがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) している。 飲食前の手洗い、外出後の手洗い・うがいを実行。 床や手すりハイター消毒。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 努めている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関近くに花を植えたり、建物周囲は田畑のため段差があり安全のためフェンスを張ってある。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 時には花を置いたりしているが、全体的にはすっきりした共同空間になっている。 <hr/> (外部評価) 共用空間は穏やかで、利用者同志助け合う姿も見られた。また職員は利用者一人ひとりの好みの居場所作りに努力している。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 一人になれる空間はない。固定化はしていないがメンバーによっては、集まる場所が決まってくる事はある。時々により思い思いで利用されている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者さんによって違いがあり、ほとんど何も置かない居室もあれば、いっぱい持ってこられている方もある。それぞれで安全等を考慮し家族と相談の上工夫している。 <hr/> (外部評価) パンフレットにも、馴染みの物品の持込を明記し、面接時に説明しているが、持参している利用者は少ない。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 各部屋にエアコンと換気扇が設置しており、利用している。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 職員が一人一人の病状を把握し、その人に合った介助を心がけている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) している。上記と同じ		
87		○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) している。 建物周囲は散歩も出来休憩所もある。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の (自己 ②利用者の2/3くらいの 評価) ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない	計画書作製のため職員が担当制でアセスメントから実施、全員での担当者会議を持っている。結果質問事項について確認しているが、中には想像するしかない方もおられる。
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己 ①毎日ある 評価) ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	日中、昼食後一緒に座ってコーヒーを飲んだり、夜間ホールでゆったりと会話することが時にある。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己 ①ほぼ全ての利用者が 評価) ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	入浴に関しては時間帯がほぼ決まっており夜間の入浴はしていない。通院は制限もあるが日時は本人・医療機関と相談の上で決定する。食事時間等も状況にあわせ、無理して入居者と合わせることはしていない。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	(自己 ①ほぼ全ての利用者が 評価) ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	家族より「表情が明るくなった」と言われたり、物忘れの不安感も、支援する事でホッとした表情をされたりすると支援できている様に思う。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	(自己 ①ほぼ全ての利用者が 評価) ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	外出・外泊共に自由に決めてもらっている。何度か帰られなくなった方は、一人での散歩は建物周囲が見える範囲にしてもらっているが、慣れてくるにつれて行動範囲が広がっている。一人は行方が分からなくなる方なので、職員が付いていく事が出来ない場合は家族と相談の上で、声掛けや施錠し制限させてもらっている。他は自由に行動させている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	(自己 ①ほぼ全ての利用者が 評価) ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	受診や服薬管理は確実にいき、本人希望も聞き相談の上で対応している。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	要望は、まず否定せず出来るだけ支援したいと考えており、柔軟性は高いと思う。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	(自己 ①ほぼ全ての家族と 評価) ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない	家族からの要望も全員で共有し対応する事で、満足してもらっている様子。介護内容・家族の状況等変化があれば、その都度面談や電話連絡等で意思の疎通を図り対応している。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己 ①ほぼ毎日のように 評価) ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	面会は家族や知人等多く来て貰っているが、グループホームの近隣者が頻繁に来て頂くことはない。デイサービス利用時は、他利用者が自宅近くの方であったりすることがある。

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) ③あまり増えていない 4 全くいない	運営推進会議の参加者には、徐々に理解を深めて頂いていると感じる。が、地元との関係が深まっているように感じないため。
98	職員は、活き活きと働いている	①ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	楽しく仕事が出来ている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	生活を重ねるたびにいらだって来るという事もなく、落ち着いた生活を送っていただいているので。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	小さな要望も遠慮なく言って頂いているので、不満があれば伝えていただけると考えている。時々面談等で要望や不満を確認しているが、特にないため。

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

## 【力を入れている点】

- \* 入居者の落ち着いた生活の支援
- \* 入居者の気持ちや行動の理解を深める事・情報の共有を確実に。
- \* 近くの保育所等・近隣との付き合いを広げていきたい。

## 【アピールしたい事】

- \* 本人が自由に生活の流れを作ってもら場面が多い。
  - \* 建物が便利で環境の良いところにある。
- ①病院・保育所・児童公園・商店等が近くにある。  
②川の近くで土手は交通量も少なく、近隣者の散歩コースとなっている。